日本軍「慰安婦」の名誉と人権のための

戦争と女性の人権博物館

「戦争と女性の人権博物館」日本建設委員会

WEB サイト URI　http://whrmuseum-jp.org
E-MAIL　whrmuseum@gmail.com
TEL&FAX　03-6324-5737

NEW!!

「戦争と女性の人権博物館」建設募金振込口座

新たに郵便振替口座を開設しました。ご利用ください。

郵便振替口座番号：00170-6-266644
口座名：女性人権博物館（ジョセイジンケンハクブツカン）

日本軍「慰安婦」の生存者たちは生きた歴史であり、歴史の教科書です。

しかし 15 年を超える月日の中で、生存者たちは一人、また一人とこの世を去り、いまや生存者は 93 人（09. 3 月現在）となりました。

私たちはこの方々が生きていらっしゃる間に、この方々が証言する日本軍「慰安婦」制度の犯罪性と、その犯罪の犠牲となった女性たちの歴史を記録し、未来の世代には再びこのような犠牲が繰り返されぬよう、教育していこうと考えています。

そのために、日本軍「慰安婦」の名誉と人権のための「戦争と女性の人権博物館」の建設を開始します。

“ともにかかわる博物館！
平和と人権の殿堂の礎になってください。”

建設目的

1 日本軍「慰安婦」被害者の人権回復

2 未来の世代のための人権、平和、歴史教育

3 現在の戦争で起きている女性に対する人権蹂躙・犯罪の告発、類似犯罪の再発防止

博物館建設構成計画

教育館
- 歴史体験の空間
- 文化体験と交流の広場
- 講堂、セミナー室

展示館
- 日本軍「慰安婦」の歴史と生涯
- アジア被害国の事例

資料館
- 日本軍「慰安婦」関連の歴史文書と資料
- 被害者の資料、韓国、アジア、国際運動

連帯の空間
- 現在起こっている戦争と女性の人権館
- 特別展示館

「博物館を建てて、私たちのことを歴史に残してほしい」という被害者たちの要望から建設が計画された、「日本軍『慰安婦』の名誉と人権のための戦争と女性の人権博物館」。1994 年から韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）が中心となって建設計画が進められてきました。

それ以来、日本軍「慰安婦」被害者の被害とたたかいの歴史を記憶にとどめ、現在も続く戦時性暴力を告発し、このような暴力を根絶するための教育の場、被害女性の人権回復と世界平和を実現するための場として博物館を建設しようと、韓国でも、日本でも、様々な取り組みがなされています。

韓国での博物館建設を側面から支援するために発足したのが、「戦争と女性の人権博物館（WHR）日本建設委員会」。正式に発足してまだ日が浅い（2009 年 2 月 7 日発足）ですが、これから博物館建設のために様々な活動をおこなっていく予定です。今後の取り組みにご注目ください。

¥100,000,000

■募金の目標総額は 1 億円

「戦争と女性の人権博物館（WHR）日本建設委員会」の主たる活動のひとつ、それは「戦争と女性の人権博物館」建設支援のための募金活動。総額 35 億ウォン（約 3 億円）の博物館建設を支援するために、日本における募金総額目標をどう立てるか、日本建設委ではこの間議論を続けて来ました。当初は、日本建設委発足時点から 5000 万円を目標にする案もありましたが、起工式から戻って改めて、日本建設委として目標額を定めました。

日本からの募金総額目標 1 億円です。

2009 年 3 月 8 日（起工式）までの日本からの募金総額は 253,800,598 ウォン（約 2000 万円）。残り 8000 万円の募金を達成すべく、皆様のさらなるご協力をお願いいたします。

■署名活動継続中

2008 年 11 月 3 日、光復会をはじめとする独立運動関連団体が、「戦争と女性の人権博物館」建設反対の声明を出し、会見を開きました。この博物館が独立運動の聖地とされる西大門独立公園内に建築許可を取ったことに対する抗議で、その場所に「慰安婦」問題を扱う博物館を建てることは「土地の性格上」ふさわしくなく、「独立運動家と独立運動を汚す『殉国先烈に対する名誉毀損』」だと述べています。

日本政府が「慰安婦」問題に対しなすべき責任を取っていないために、このような主張が被害女性の生きる国で噴出していることに胸を痛めつつ、責任を負うべき国に生きる者として、独立運動関連団体が主張を撤回し、ソウル市はひるむことなく博物館建設を推進するよう求める署名を募っています。

署名はウェブサイトからメールでおこなっていただくこともできます。ウェブサイトでは署名の趣旨文や関連資料をご覧いただけるほか、署名用紙をダウンロードすることもできます。署名活動開始からこれまで 3 次の集約をおこない、第 4 次集約日は 2009 年 8 月 15 日です。ご協力をよろしくお願いいたします。

■略称決定！　「WHR 日本建設委」

「戦争と女性の人権博物館」日本建設委員会――。名前が長い！　長い名前ではなにかと不便、書くのがたいへん、覚えてもらえない！

試行錯誤の結果、私たちは「WHR 日本建設委」という略称を名乗ることにしました。当面は「戦争と女性の人権博物館（WHR）日本建設委員会」という書き方をしつつ、皆さんの目になじんだかなと思える頃に「WHR 日本建設委」への移行をもくろんでいます。

見慣れない名前に「なんの団体かしら？」と思うなかれ。「WHR 日本建設委」を今後ともよろしくお願いします。

09.02.07
日本建設委発足

09.03.07
-11
[日本建設委企画]
起工式参加ツアー

09.03.08
博物館起工式

3 月 8 日の世界女性デーに、博物館の建設予定地であるソウル西大門独立記念公園で起工式が開かれました。会場には約 400 人が訪れ、日本からも 60 名が来場。日本建設委ではこれに合わせて起工式参加ツアーを企画・実行しました。

李容洙（イ・ヨンス）ハルモニ、吉元玉（キル・ウォノク）ハルモニ、李順徳（イ・シンドク）ハルモニ、李莫達（イ・マクタル）ハルモニ、金福童（キム・ボクトン）ハルモニ、金ボクトゥクハルモニらが最前列で壇上を見守るなか、多くの方が挨拶・報告・パフォーマンスなどをされ、日本建設委からも、会を代表して梁澄子が日本の募金状況などを報告しました。

式典の最中に独立運動関連団体の人たちが声明文を配る示威行動に来ましたが、大きな混乱はなく、挺対協の尹美香代表が彼らを連れ出して説得を試みていました。

起工式は行われましたが、実際に建設が始まる目途は立っていません。原因は二つ。一つは、募金がまだ十分でないこと。もう一つは、独立運動関連団体の反対を意識したソウル市が、建築許可を出しておきながら現在建っている売店の取り壊し許可を出していないことです。

▶式のフィナーレ、壇上で除幕をおこなうハルモニたち。

「戦争と女性の人権博物館（WHR）日本建設委員会」呼びかけ人（五十音順・敬称略）

李政美（歌手）イ・ヨンスク（一橋大学教授）池田恵理子（アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」（wam）運営委員長）石川真生（写真家）鵜飼哲（一橋大学教授）大森直樹（東京学芸大学教員）川田文子（ノンフィクション作家／日本の戦争責任資料センター共同代表）君塚仁彦（東京学芸大学教員）金富子（VAWW-NET ジャパン運営委員）辛淑玉（人材育成コンサルタント）高里鈴代（基地・軍隊を許さない行動する女たちの会共同代表）高橋哲哉（東京大学教授）鄭暎惠（大妻女子大学教員）中野敏男（東京外国語大学教員）中原道子（VAWW-NET ジャパン共同代表）西野瑠美子（VAWW-NET ジャパン共同代表）林博史（関東学院大学教授／日本の戦争責任資料センター研究事務局長）朴慶南（作家）吉見義明（中央大学教授）